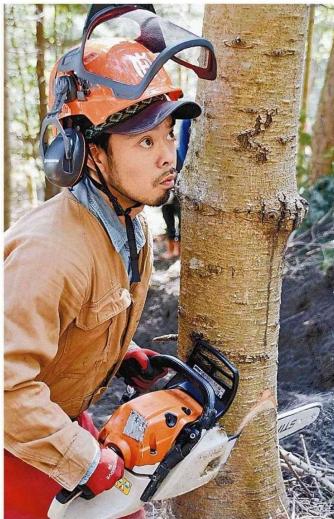


2017/10/11 道東（道東）



山林所有者が枝打ち、下草刈りから販売… 自伐型林業 根付くか

「自伐型」と呼ばれる林業への関心が高まっている。文字通り「自分で木を切る」林業だ。枝打ちや下草刈りといった森林管理から、伐採・搬出などの施業・販売までを山林を所有するや借りた人が自ら行う。森林組合や企業の手掛ける大規模林業に比べて投資・コストで大きな差があるため、始める際の敷居は低い。西日本で先行し、近年は全国へ広がりつつある。道内でも昨年、胆振・空知管内の中小林業家らが推進協議会を設立した。自伐型は北の大地にも根付くだろうか。

（報道センター 関口裕士）

低投資で始めやすく

エーネーの音が木立の間に響く。9月中旬、北海道自伐型林業推進協議会が胆振管内洞爺湖町で開いた自伐型林業養成塾には30～70代の林業家養成塾の参加者たちが15人が参加した。大半が林業初心者だ。

「機械の使い方や切る木の選び方などを勉強になる。塾生の一人で同管内白老町の地域おこし協力隊員、原展紀さんは『農業をしたい人と同じく、森林組合などに施業を委託し、大型機械で大量に伐採す

るのが主流だった。特に1960年代の木材輸入自由化後は、セメントも林業が盛んになり、自伐型林業が盛んになりました。木を倒す方向をしっかりと見据てる=9月16日⑤講師の説明を聞く自伐型林業家養成塾の参加者たち=8月25日（いずれも洞爺湖町月浦の「夢見る森」）



推進協の中嶋健造さん

100万人規模の雇用創出も



NPO法人自伐型林業推進協会（東京）代表理事の中嶋健造さん（55）の話

地方創生や持続可能な地域開発には自伐型林業しかないと確信を持っています。私自身、故郷の高知県にUターンして地域活性化に取り組む中で、豊富な森林資源が活用されていないことに気づきました。日本は国土の7割が山林です。どこに行っ

ても山がある。それを生かさない手はない。

同じ1次産業でも戦後の農業は農地を持つ人が自分でやっています。これに対して林業は山林の所有と施業の分離が進んだ。それが日本林業をおかしくした原因です。森林組合などへの施業委託型が主流になって林業就業者は最盛期の10分の1にまで減少しました。

国や地方自治体、企業などが自伐型林業を後押しすれば、地方に関連産業を含め100万人規模の雇用を生むことも可能だと私は考えています。過疎の自治体の消滅を防ぐ最も効果的な対策にもなるのです。そのためには数十年かかると思いますが、もともと林業は100年先を見据えた産業です。今こそ、その一步を踏み出さないといけません。

これからは環境に配慮した持続可能な林業を行うことが求められます。大きなボテンシャル（潜在的 possibility）を生かした、北海道ならではの自伐型林業が広がることを期待しています。

「自伐型」と呼ばれる林業への関心が高まっている。文字通り「自分で木を切る」林業だ。枝打ちや下草刈りといった森林管理から、伐採・搬出などの施業・販売までを山林を所有するや借りた人が自ら行う。森林組合や企業の手掛ける大規模林業に比べて投資・コストで大きな差があるため、始める際の敷居は低い。西日本で先行し、近年は全国へ広がりつつある。道内でも昨年、胆振・空知管内の中小林業家らが推進協議会を設立した。自伐型は北の大地にも根付くだろうか。

過疎地の定住策に

ア闇連の仕事をする札幌市北区の田村道子さん（62）は「老

後は自然寄り添った生活が

してい

た。

自然を副業として、自伐型林業で収入を得られれば」と話した。

自伐型林業に詳しい九州大

学院の佐藤宣子教授（56）

は、西日本の中山間地域で自伐型林業がI・Uターンをする都部の若者の受け皿になつていてと説明。「過疎地の定住費とともに自伐型林業で収入を得られる」と話す。

自伐型林業に詳しい九州大